

2. こどもたちの橋への関心を深める取組

1. 課題～方向性

① 課題

- ・橋は日常生活の中で当たり前利用されているが、その役割や維持管理の重要性が意識される機会は少ない
- ・維持管理や更新に対する市民の理解が不足
- ・全国的にインフラ施設の老朽化が進行
- ・新潟市においても橋梁の老朽化が進み、将来的な更新やあり方の検討が必要
- ・将来のインフラを支える担い手の確保

② 必要性

- ・持続可能な維持管理を実現するためには、市民の理解と協力が不可欠
- ・橋を「通過施設」ではなく「地域の財産」として認識してもらう必要
- ・将来世代に対する早期からの意識醸成

③ 方向性

- ・こどもたちが橋について学ぶ機会の創出
- ・橋の役割や維持管理の重要性を体験的に理解できる取組の実施
- ・将来にわたり地域全体で橋を支える意識の醸成

2. 目的

こどもたちの橋への関心を高め、将来のインフラを支える意識を育む

橋の役割や維持管理の重要性を学ぶ機会を提供し、地域インフラへの理解を深めるとともに、将来の担い手確保や地域合意形成の基盤づくりにつなげる。

➤ こどもたちが橋を「知る・関わる」体験型の企画を実施する

【新潟県内における各種取組】

自治体/教育機関/団体	対象	内容
長岡地域振興局地域整備部	小学生 (5・6年生)	・橋のお話(旧浦村鉄橋に関する学習会)
柏崎地域振興局地域整備部	小学生 (低学年)	・新設橋の現場見学および床版に絵を描く体験イベント
魚沼地域振興局地域整備部	小・中学生	・出前講座(河川・道路・橋梁に関する総合学習支援) ・土木出張PR(土木に関する講義や実習(段ボールブリッジ作製など))
萬代橋誕生祭実行委員会 (国交省、新潟県、新潟市 他)	全世代	・萬代橋に関わる展示や体験ワークショップ、スタンプラリーなど
長岡工業高等専門学校(学生団体Be-Mice) 【協賛/後援】 日本サミコン、アイ・エス・エス、日本橋梁建設協会 他)	全世代	・コンクリートキーホルダー作り、レゴ建設機械操縦体験などの市民向けインフラ体験イベント ・パンフレット「はしおし」による、橋を含めた土木全体の情報発信
長岡工業高等専門学校	小学生 (4~6年生)	・アーチ橋をわりばしでつくる体験会
土木学会関東支部新潟会	小学生 (4~6年生)	・親子工事見学会
新潟県建設業協会	小・中・高校生	・現場見学会(ボルト締付・塗装・測量体験含む)
建設コンサルタンツ協会北陸支部	高専生、大学生	・PR活動報告(建設コンサルタントの役割や魅力、社会資本整備・インフラメンテナンスの重要性、業界の現状や将来展望など)
長生橋を愛する会	小学生以上	・長生橋構造見学会(高所作業車により橋梁トラス構造の間近見学)

【企画案】

過去のアセットマネジメント検討委員会でも提案した「名付け親イベント」に、小規模橋梁点検で使用しているタブレット端末を活用した簡易点検体験を組み合わせたイベントについて、企画の可能性について検討する。

【企画のポイント】

1. 体験型とし、理解しやすく記憶に残りやすい内容
2. 楽しく・親しみやすく、橋への関心を高められる内容
3. 体験を通じて橋の役割や維持管理の重要性を実感できる内容
4. 単発のイベントにとどまらず、継続的な取組につながる内容
5. 行政(新潟市)ならではの内容
6. 新潟市の橋の現状や取組を伝えられる内容

3. イベント概要（案）

実施内容	
企画名	(仮)わたしたちの橋プロジェクト ～みつけて、記録して、名づけよう～
場所	西蒲区 潟東地域
対象者	小学生～中学生
人数	10グループ程度※ 1～5名/グループ ※タブレット台数と職員配置数を考慮
時期	7～8月（夏休み期間※） ※夏休みの自由研究の題材となり、クラス発表を通じて取組内容の広がりが期待できる
内容	小規模橋梁点検で実際に使用しているタブレット端末を活用し、簡易な点検体験を通して橋の役割や特徴を学んでもらうとともに、観察を踏まえて橋の新たな名称を考えてもらう
参加特典	点検した橋（無名橋）の命名権 橋の名称を記した橋名板の設置

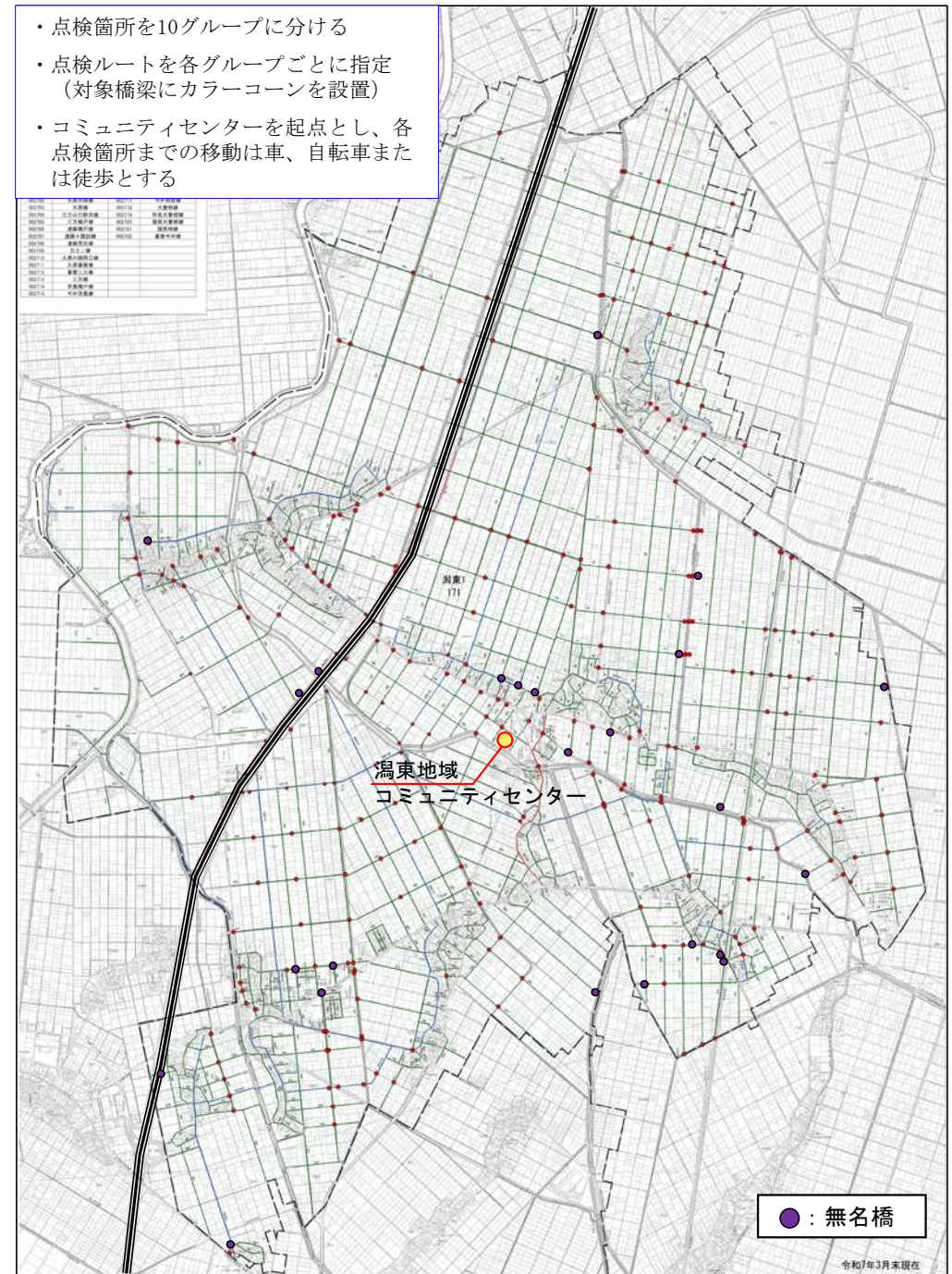
令和8年				
4月	5月	6月	7月	8月
打診				
内容、時期、役割分担など				
	準備			
案内チラシなどの広報 橋周辺の事前確認 など				
			イベント	

タイムスケジュール	
12:30～13:00	受付
13:00～14:00	開会式、企画説明、新潟市の橋のお話、タブレットの基本操作演習
14:00～16:00	点検開始
16:00～16:55	グループ発表（気づき、感想など）、命名橋梁の選定、橋梁名称の選考
16:55～17:00	閉会式

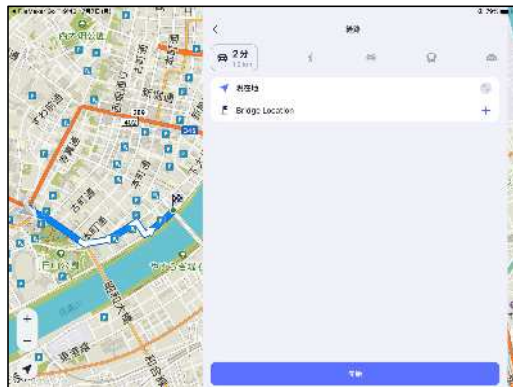
【潟東地域を開催地として選定した理由】

- 令和7年度に橋梁点検の案内チラシを全戸配布しており、橋の点検と本企画の趣旨が近いことから、他の地域と比較して企画の趣旨が地域住民に伝わりやすく、参加者の確保が見込めるため
- 潟東地域では「どろんこカップ」や「かもん！カモねぎまつり」などの地域イベントが毎年開催されており、イベント運営のノウハウを有しているため

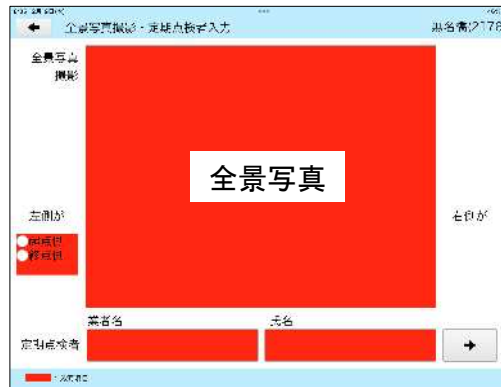
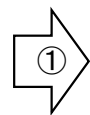
潟東地域における小規模橋梁位置図



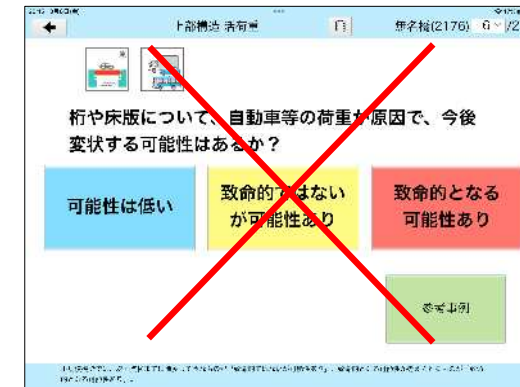
4. 実施方法（案）



(1) ルート案内機能により、点検箇所まで移動



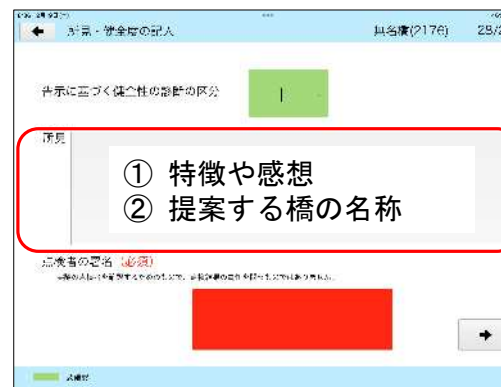
(2) 橋の全景写真の撮影



(3) 部材毎の点検は実施しない



(4) 損傷等、気になった箇所の写真を撮影（舗装や防護柵にとらわれない）



(5) 所見欄に特徴や感想、提案する橋の名称を記入

5. 実施にあたっての課題と対応方針

項目	課題	対応
安全	事故やケガのリスク	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けに安全ルール説明カードを配布 タブレットの操作方法の補助も含め、各グループに対し職員1名を配置 悪天候時のイベント中止基準の設定 イベント保険の加入
新たにつける橋名	名前の決定プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 特定個人名や団体名不可 公序良俗に反しないもの 行政職員でチェックする 決定は、投票や子どもたちを含む選考委員会
地域住民との調整	参加人数の確保	<ul style="list-style-type: none"> 案内チラシの作成 自治会説明会の実施 コミ協や区役所との連携（広報）
イベント効果の評価	評価方法、継続性	<ul style="list-style-type: none"> 参加者へのアンケート調査 実施時の課題やアンケート調査をもとに、次年度以降の改善につなげる

6. ご確認いただきたい事項

1. 本イベントの方向性
2. 本イベントへの参加を促すための広報方法
3. 本イベントにおける効果の捉え方と評価のポイント（アンケート調査の内容・視点・ポイント）
4. 単発のイベントとせず、継続する場合の留意点
5. 他の企画案